第８期 第５回 与謝野町産業振興会議 会議報告書

日　時　令和８年１月29日（木）午後７時00分～午後８時18分

場　所　岩滝保健センター２階　会議室１・２

出　席（敬称略）

小林　厚美	西原　新介	寺立　浩人	糸井　宏輔
岩西　拓男	足立　克徳	安達　幸三	谷口　祐一
太田　桂史	小山　大介（ｵﾝﾗｲﾝ）	山添　宏明	小森　哲哉
大槻　晃一	宮﨑　真実	江種　里栄子	

欠　席（敬称略）

青木　一博	西村　彬弘	小田垣　凜	

事務局

産業観光課　市田課長	産業観光課　田村補佐	同　井上係長	同　妹尾係長
同　西原主査	農林環境課　細見主任		

傍聴者　なし

会議概要

１．開会（小林会長）

２．議事

（１）阿蘇ベイエリア活性化マスタープランについて

事務局　妹尾係長から、策定から10年が経過した「阿蘇ベイエリア活性化マスタープラン」の現状と、今後の見直し方針について説明

現行プランの構造と課題

○核となる方針として「天橋立からの航路（船によるアクセス）の復活」を最優先事項としている。

○10のプロジェクトとして航路復活を阻む10の問題を挙げ、それぞれに解決策（プロジェクト）を提示

○現状との乖離した点

・Google検索結果に見られた「阿蘇海の汚染イメージ」は現在では改善されつつある。

・プラン内のアクティビティ案（桟橋からのシーカヤック等）には、物理的な制約や安全

面の課題がある。

・10 年間で「航路復活」そのものは進展しておらず、計画が形骸化している。

今後の議論の方向性

事務局より、「航路復活を前提とした個別修正」ではなく、「航路復活を一旦横に置き、ゼロベースで新たな阿蘇ベイエリアの活性化策を考える」という提案を行い、委員間で合意した。

（２）その他

第６回産業振興会議

日時：令和８年３月３日(火)午後３時３０分から

場所：岩滝保健センター２階　会議室１・２

議事：阿蘇シーサイドパークの利活用について

京都橘大学　小山ゼミから「加悦ファーマーズライス」で行っている調査事業の中間報告を発表

1. 調査の目的と背景

- **地域内経済循環の可視化： 行政・企業と連携し、地域内での再投資や所得向上のメカニズムを分析する。**
- **課題解決へのアプローチ： 人口減少社会において、持続可能な地方創生に向けた「地域中核企業」の役割を明確にする。**
- **現状分析： 与謝野町の町内総生産は回復傾向にあるが、実質ベースの所得は現状維持の状態。付加価値の向上が急務である。**

2. 「地域中核企業」としての加悦ファーマーズライスの特徴

報告では、同社が以下の４点で地域経済の起点となっていると評価

1. 営農継続への寄与： 与謝野町産の米を一定数買い支え、農家の所得を保障している。

2. 付加価値の形成： 町内産の米を「焼鯖寿司」等に加工し、高い付加価値を付けて販売。

3. 外貨の獲得： 売上の大部分が町外（主に関西圏の高速道路 SA 等）であり、地域外から所得を呼び込む「地域商社」の機能を持つ。

4. 雇用の創出： 第３セクターとして成功し、地域内での継続的な雇用維持に貢献。

3. GIS（地理情報システム）を用いた分析結果

GIS によるデータ可視化により、以下の実態が明らかになった。

- **米の調達範囲： 調達先は平地だけでなく山岳部まで町内全域に広がっている。**
- **販路の広がり： 関西を中心にブランド力が確立されており、首都圏や物流拠点への展開が進んでいる。**

4. 今後の展望

- **最終報告に向けて： 地域内での付加価値形成プロセスをより精緻に分析**
- **政策提言： 2026 年 3 月の次回会議にて、学生による最終報告と、地域内経済循環を促進するための具体的な提言を行う予定**

3．閉会（西原副会長）